

四国山地におけるツキノワグマ生息範囲調査の結果について
～「はっっこプロジェクト2019」～

剣山山系及びその周辺地域のみには生息する四国のツキノワグマは、2017年時点で16頭から24頭と推定されており(鶴野ら 2019)、環境省レッドリスト2019では「絶滅のおそれのある地域個体群」とされています。

中国四国地方環境事務所、四国森林管理局及び(認特) 四国自然史科学研究センターでは、ツキノワグマの生息状況を把握するための調査「はっっこプロジェクト」を、平成26年度から連携して実施しています。(中国四国地方環境事務所は平成27年度から参画。)

令和元年度(平成31年度)の調査結果は下記のとおりでしたので、お知らせします。

記

1 調査概要

調査期間：平成31年3月から令和元年12月まで

調査方法：無人撮影装置(センサーカメラ)による調査
20箇所54地点に無人撮影装置を設置

四国森林管理局： 3箇所9地点

中国四国地方環境事務所： 9箇所27地点

四国自然史科学研究センター： 8箇所18地点

2 調査結果(別添1参照)

令和元年度(平成31年度)のはっっこプロジェクトでセンサーカメラを設置した20箇所のうち10箇所(徳島県7箇所、高知県3箇所)において、少なくとも15頭のツキノワグマが確認されました。そのうち、親子グマは2箇所(母クマ1頭とその子グマ2頭が1箇所、母クマ1頭とその子グマ1頭が1箇所)、合計成獣2頭、幼獣3頭で確認されており、平成30年度に引き続き、順調に繁殖が行われていることが確認されました。

生息が確認された10箇所はいずれも、これまで生息が確認されていた区域に含まれており、依然として四国のツキノワグマは剣山山系及びその周辺の限定的な地域のみで生息していると推察されます。一方で、調査箇所の西端の3箇所を含む周辺地域(別添1)では、平成26年度から継続的にセンサーカメラを設置しているものの、生息が確認されないことも明らかとなってきました。四国のツキノワグマの限られた生息地であ

る剣山山系において、その生息状況を適切に把握するために、各機関の連携による生息状況モニタリングを継続していく必要があります。

なお、今回の調査では、環境省レッドリスト 2019 で絶滅のおそれのある地域個体のニホンカモシカや高知県レッドデータブック(2018)で準絶滅危惧とされるニホンモンガなど複数の動物が撮影されており、四国山地周辺の森林が多様な動物のすみかとなっていることが窺えます。

3 今後の予定

今回の調査結果を踏まえて、令和2(2020)年度も調査を継続する予定です。

～ お問い合わせ先 ～

中国四国地方環境事務所

野生生物課 阿部 TEL : 086-223-1561

四国事務所 金丸 TEL : 087-811-7240

四国森林管理局

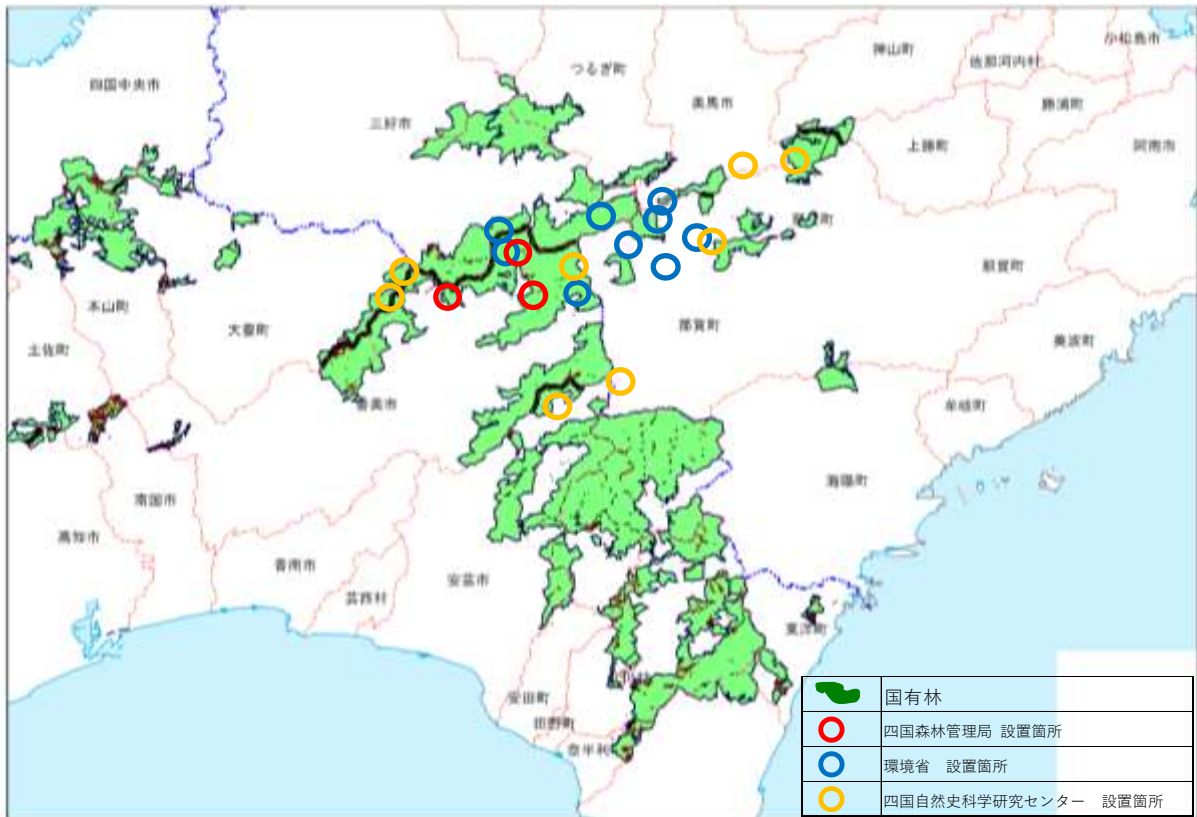
計画課 原、森本 TEL : 088-821-2100

四国自然史科学研究センター

山田、安藤 TEL : 0889-40-0840

○ 調査箇所

剣山系周辺（高知県と徳島県）の国有林及び民有林



○ 今回の調査で撮影された動物

名称	撮影箇所	名称	撮影箇所
ツキノワグマ	10	ニホンザル	19
アナグマ	15	ニホンジカ	20
イノシシ	17	ニホンノウサギ	4
キツネ	11	ニホンモモンガ	1
タヌキ	18	ニホンリス	7
テン	18	ハクビシン	12
ニホンカモシカ	8	ムササビ	1
ネズミ科の一種	3	ヤマネ	0
イタチ属の一種	1	コウモリ目の一種	4

※ 箇所数は、全調査箇所（20箇所）のうち、対象となる動物が1回以上撮影された調査箇所の数。